

# 石川島記念病院

付 佳 准看護師

- 功 績** 初めての中国人の入院にあたり、夜勤者に対する翻訳冊子作成、他職種におけるサービスの通訳を積極的に行っていました。このことから、患者さんは入院生活がスムーズに過ごすことができおり、リハビリテーションに意欲的に取り組むことができる環境づくりに貢献した功績。
- 推 薦 者** 看護部長 丸山 恭子
- 推 薦 理 由** 付 佳准看護師は、奨学生で入職した新人准看護師です。はじめは、言葉が通じないことで夜勤者が困る状況が発生するのではないかとチームで話し合い夜勤者用の翻訳冊子を作成して頂きました。実際に患者さんが入院後、多職種チームで支援することから、看護部だけでなく、他部署でも患者さんとのやりとりで詳細な状況把握するうえで、付准看護師の存在が大きくチーム医療に貢献していると思うので推薦します。

## 内 容

---

付 佳准看護師は、奨学生で入職した新人准看護師です。勤務態度は真面目で患者さんにも親切で、良く話を聞いてくれるため人気者です。

このたび初めて中国人の患者さんが入院することになり、日本語がまったく話せない患者さんであるため、言語問題をどうしていくかチームで話し合いました。日勤は、中国人看護師の王看護師（外来）、付准看護師が勤務していることから、大きな問題にはならないと予想し、夜勤帯が一番困ることが多いのではないかという意見の下、夜勤者用の翻訳冊子を作成することになりました。そこで、来年の看護師国家試験の勉強にもなるのではないかと考え、プリセプターと新人の付准看護師に依頼したところ、快く引き受け作成して頂きました。患者さんは、慣れない環境で入院生活を送ることに誰もが不安をもっています。言葉がわからない状況であれば、さらに大きな不安を抱えていると想像に難くありません。看護師も言語がわからないことで、適切な援助に繋がらないことでの不安があります。夜勤者は相談できるスタッフも限られており翻訳冊子は、スタッフにとっても安心感に繋がっています。現代はアイパッドやスマホでの翻訳も可能な時代ですが、実際に会話したときに、患者さんの言葉をこちらが理解できるような翻訳にならないことが多々あります。リハビリテーションを実施する際に、伝えたいことはできるのですが、患者さんが話したことが翻訳アプリを使用しても理解できず、意思疎通がうまくできない状況が起きていました。そこで時折通訳を依頼され、的確に通訳してもらうことで、リハビリテーションもスムーズに行えた、栄養科からは、好みの食事や食形態などを詳細に確認できたこと、MSWからは、患者さんの状況が良く理解できたと多くの部署のスタッフから感謝されています。